

F-REDD 2 Newsletter

The Project for Enhancing Sustainable Forest Management in
Collaboration with REDD+ Programs and REDD+ Funds in Laos
Feb 2022 - Jan 2027

ラオス国効果的なREDD+資金活用に向けた持続的森林管理能力強化プロジェクト (F-REDD 2)

本プロジェクトはREDD+成果支払いの獲得、および同資金による事業実施を支援しつつ、ラオス森林セクターの今後の優先課題である森林戦略2035の実施体制の強化及びREDD+関連活動のさらなる推進・強化を通じて、ラオスにおける持続的森林管理の能力強化することを目的としています。

第2回JCC会議でプロジェクトの進捗と今後について議論しました

合同調整委員会（Joint Coordinating Committee: JCC）の第2回会議が2022年11月10日にビエンチャンで開催されました。

今回の会議は、2022年2月にプロジェクトが開始してからの進捗や成果と、2023年の計画についてラオス政府とJICAが合同で確認することが目的です。ラオス農林省森林局次長とJICAラオス事務所次長を共同議長として、JCCメンバー、カウンターパート、プロジェクト専門家の総勢約30名が現地から、JICA本部やプロジェクト専門家がオンラインで参加しました。

開始初年からF-REDD 2はトップギアでの活動です。保護林首相令改訂、森林炭素パートナーシップ基金（Forest Carbon Partnership Facility: FCPF）の炭素基金への排出削減成果の報告、県森林減少モニタリングシステム（Provincial Deforestation Monitoring System: PDMS）の合計14県への展開、サバナケット県のランドスケープ管理計画プロトタイプ準備、などを支援中です。多くのドナーやプロジェクトとの連携も特長で、特に5月頃にラオスがポストCOVID-19へ移行してからはそれらと協働する機会が

本格的に再開し、また海外でのワークショップにカウンターパートと共に招待されることも増えました。

2023年も同じく息をつかぬ年となりそうですが、形に見える成果を目の前にして、全力での支援を続けて行きます。



第2回JCC会議

サバナケット県における森林ランドスケープ管理の促進

ラオスには保全林、保護林、生産林の3つの森林管理区分があります。広大な森林管理区分を限られた人材・資金・物資を効率的活用しながら、地理的一体性をもって保全するための効果的なアプローチとして、森林ランドスケープ単位での森林管理は有効と考えられます。

F-REDD 2はサバナケット県を対象として、REDD+実施に向けた実施体制の構築や能力強化を支援しています（<https://www.jica.go.jp/project/english/>

[laos/028/news/general/220620.html](https://www.jica.go.jp/project/english/laos/028/news/general/220620.html)）。

その中で、サバナケット県における2つの保全林と2つの保護林を1つの森林ランドスケープと捉え、その管理体制の構築および管理計画のプロトタイプ作成を進めています。これは近接する森林管理区分を一体的に管理するための考え方と手法を提案しようとするものです。

プロトタイプの作成方針についてカウンターパートと協議が済み、大枠の進め方について合意しました。

プロトタイプは、重要な保護区域や住民に一定の利用を認める区域などのゾーニングや、森林管理活動が盛り込まれます。

2022年12月には、県と郡の森林官が対象となる森林ランドスケープ周辺の16村をサンプルとして訪問し、村人による自然資源利用や村人の生計に関する調査を行いました。この調査結果から対象となる森林ランドスケープの管理向上につながる活動や、森林資源への依存に代替する生計手段などを取りまとめます。



村落における聞き取り調査の様子

素晴らしい進捗を見せた2022年の排出削減プログラム

2022年12月20日、ラオスは、森林炭素パートナーシップ基金 (Forest Carbon Partnership Facility : FCPF) 炭素基金 (注1) の排出削減プログラムに対して、「排出削減モニタリング報告書」を提出しました。この報告書は、第1回目のMMR (測定、モニタリング、報告) を通じて、北部6県における2019年~2021年の排出・吸収量を基準年である2005年~2015年の排出・吸収量と比較し、まとめたものです。

F-REDD 2は、このMMRの実施と報告書の作成において、ラオス農林省森林局と共に歩んできました。例として、衛星画像を用いた「2022年森林区分図」の更新と、サンプリングによる活動量 (Activity Data) データの推計に必要な技術支援を森林局森林調査計画課に提供しました。森林被覆の変化を示す活動量に排出係数 (Emission Factor) を乗じることで排出・吸収量が算出されます。加えて、FCPFの受託機関であるWord Bankとの調整や、Silva Carbonとの連携もF-REDD 2を通じて促進されました。

ラオスは、2020年12月に炭素基金と締結した排出削減支払契約に基づき、2019年~2021年の間に340万tCO₂eqの排出削減量を創出し、販売することを目指しています。その収益は「Governance, Forest Landscapes and Livelihoods in Northern Lao PDR project」の実施資金となります。

「排出削減モニタリング報告書」は、2023年前半に第三者機関により審査される予定です。この審査プロセスについても、F-REDD 2は森林局の支援者として、待ち望まれている成果支払いの実現に向けた協力を続けます。

(注1) FCPFとは、世界銀行が信託を受けて運営するREDD+基金。そのうち炭素基金 (Carbon Fund) は世界18ヶ国に対して成果支払い基金を予定している。



森林調査計画課による、2022年森林区分図を用いた活動量推定のための解析業務の様子

県森林減少モニタリングシステムがラオス全国に拡大しつつあります

F-REDD 2では、衛星画像を活用した県森林減少モニタリングシステム (PDMS) を開発し、森林モニタリングの強化に向けて、モニタリング手法と実施体制の強化を図ってきました。その結果、PDMSを導入して森林モニタリングを実施する県が拡大しています。

2022年には、まず緑の気候基金 (GCF) とドイツ

国際協力公社 (GIZ) によるREDD+実施プロジェクト (I-GFLL) と連携して、ラオス北部3県 (ルアンプラバン、ファパン、サヤブリ) を対象にPDMSの技術研修と実施のフォローアップを行い、その結果、2022年1月から9月までに、約300件の森林減少の報告がありました。また、11月には世界銀行の資金を活用

して、残りの北部3県（ボケオ、ルアンナムター、ウドムサイ）でも導入されています。これによりFCPF炭素基金排出削減プログラムの北部6県にPDMSが展開したことになります。

2023年からは、他プロジェクトとの連携により中部県（サバナケット、ビエンチャン、ポリカムサイ、カムアン、サイソンプン、シェングン）や南部県（チャンパサック、アタプー）においてもPDMSの導入を予定しています。これにより、ラオスの17県のうち14県にPDMSが展開することとなります。



森林官を対象とした森林モニタリング研修

Contact

F-REDD 2/DOF Office

Kouvieng Street, Sisaket Village,
Chanthabouli District,
Vientiane Capital, Laos
Tel & Fax: 021(22)2536



Ministry of Agriculture
and Forestry



[Website](#)

F-REDD 2/FIPD Office

Phontong Swath Village, House No.
386, Unit 44, Chanthabouly District,
Vientiane, Laos



Japan International
Cooperation Agency



[Facebook](#)